

### CONTENTS

**Interview** 離床と排尿機能の関係を専門医が解説!  
**病院・施設訪問** 社会福祉法人 百鷗  
 介護老人福祉施設 葉山清寿苑

### Interview



## 離床の促進が残尿の軽減と膀胱機能の回復につながります

東京都リハビリテーション病院 副院長  
 東京慈恵会医科大学 准教授

### 鈴木康之 先生

泌尿器科専門医・指導医として、排尿障害・骨盤臓器脱の治療と研究を行う。  
 著書に「トイレが近い」を解決する本」(マキノ出版)他、専門書の監修も手掛け、日本老年泌尿器科学会やその他の学会の評議員などを務めている。

### 膀胱内の残尿は尿トラブルの要因に

ベッド上で寝て過ごす時間が長くなる要介護高齢者の方の場合、臥位での排尿の機会が多くなりがちです。臥位は座位や立位と比べ腹圧をかけにくいいため、尿を全て出し切ることができず、排尿後も膀胱内に尿が残りやすくなります。

膀胱内の残尿は、50cc程度であれば問題はありませんが、100～150cc以上の多量になると、入り込んだ細菌が排出されず尿が混濁するようになります。これは、残った尿中の老廃物を栄養分としてプロテウス菌などが繁殖し、尿素を分解することで様々な不純物を生成するためです。その代表的な不純物には、MAPと呼ばれるリン酸マグネシウムアンモニウム結石 (Magnesium Ammonium Phosphate) がありますが、MAPは混濁尿やおむつ表面に砂状のものとして散見されます。

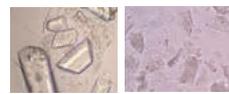
こうした状態が進行すると、頻尿や膀胱炎などの尿路感染症を発症する可能性もあります。

### ■ 終日寝て過ごす方の尿の特徴

不純物未混入の尿



不純物混入の尿



リン酸マグネシウムアンモニウム結石

上皮細胞

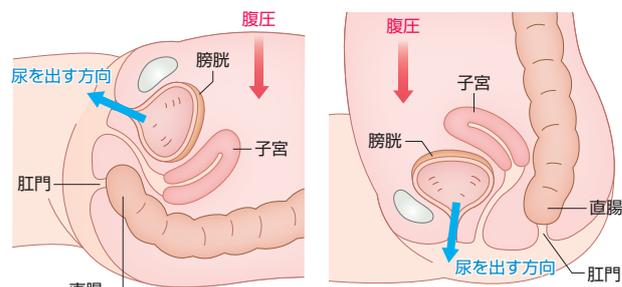
### ■ 日中の離床により様々な効果が!

このような尿トラブルにつながるリスクを低減するためには、できるだけ膀胱内に尿を残さないようにすることが重要です。日中はできるだけ離床を心掛け、腹圧がかけられる座位で過ごすように促すと良いでしょう。

また、離床し手足を動かすことで、手足の運動機能が向上すると、似通った神経伝達経路を使う膀胱の運動機能も回復していくことがわかっています。さらに、上体を起こした状態で他者と交流することは、ご本人の精神面にも好影響をもたらします。

最近では、座位での吸収性に優れたパッドもあるようなので、利用してみるのも一つの方法です。無理のない範囲で、ぜひ離床の促進に取り組んでみてください。

### ■ 臥位(左)と座位(右)における腹圧の違い



同じ方向なので効果的に力が働く

# 病院・施設訪問

入所者の意思及び人格を尊重する  
高齢者総合サービス介護施設

社会福祉法人 百鷗  
介護老人福祉施設 葉山清寿苑(神奈川県葉山町)



自然豊かな丘の上に立つ。療養室80床。

葉山清寿苑様では、離床を促す排泄ケアへの取り組みとして、『長時間安心さらさらパッドプレミアム』をお試しいただき、昼間13時のおむつ交換を見直す検討を行いました。利用者様の変化や、スタッフの方々の感想をご紹介します。



お話を伺った松尾さん(左)と新倉さん(右)

## 新しい排泄ケアの取り組みとは？

- 日中のおむつ交換の多さにより利用者様がベッド上で過ごすことが多いため、日中のおむつ交換の回数を見直しました

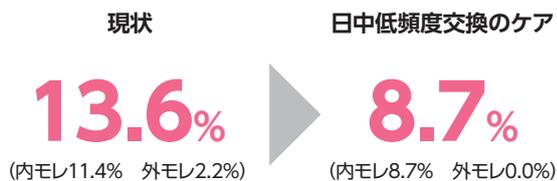


検証方法:終日テープ止めを使用し、特にモレや肌トラブルが気になる女性の方を対象に1週間、9時から16時まで『長時間安心さらさらパッドプレミアム』を使用。

## 取り組み後の検証結果は？

- モレトラブルの懸念が払拭されました
- 肌の浸軟リスクが大幅に低減しました

### モレ率



※9:00～16:00の衣服・シーツまでの外モレとテープ止めの汚染の内モレをカウント

### 殿部の水分量



※SKICON 測定による平均値、 $\mu$ S(マイクロジーメンス)電気の伝わりやすさで水分量の大小を指標化。※おむつ非使用者の殿部の角層水分量 50～100 $\mu$ S

- おむつ交換の見直しにより、業務上で様々な変化がみられました

- トイレ介助をより丁寧に行えるようになった
- 気持ちにゆとりができて丁寧に一人一人の介助を行えるようになった
- 時間に追われず気持ちにゆとりがもて、利用者様への対応がやさしくできると思う
- レクなど利用者様とのコミュニケーションが増えた



## 日中のおむつ交換の見直しで 利用者様とのコミュニケーションを活発に

施設介護事業部  
部長 松尾博樹さん

今回、「日中における新たな排泄ケアの質の向上への取り組み」で試用する、新しい昼用パッドの説明を受けた時、真っ先に思ったことは、**スキントラブルなど利用者様への負担がかかるのではないかと、介護スタッフがおむつ交換を減らすことに不安や抵抗感を感じるのではないだろうか**という懸念でした。

今回は1週間の検証でしたが、**肌への浸軟リスクや臭い、またモレトラブルへの効果など、パッドの進化に驚かされました**。もちろん、おむつの随時交換は第一優先ですが、検証の結果をもとに利用者様にあったケアの中で、パッドの性能を活かしたおむつ交換の見直しを行うことにより時間を創出させ、レクリエーションや語り合いなど**利用者様とのコミュニケーションにもっと活用できるのでは**と考えています。それが**利用者様の生活の質の向上となり、さらに介護スタッフの“介護業務へのやりがい”にもつながっていくもの**と思われま



## 利用者様の離床時間が長くなり、 リビングで過ごす時間が長くなりました

新倉規充さん

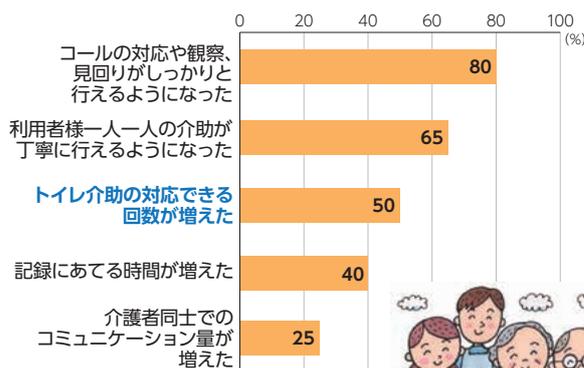
新しい昼用パッドの試用は、私がリーダーを務める排泄委員会が中心となって検討し、実施しました。試用を始めてからは、**おむつ交換の度にベッド上へお連れする機会が減ったことで、今までベッド上で過ごすことが多かった利用者様の日中での離床時間は長くなり、座っている時間が増えました**。また、従来のパッドに比べ**長時間の装着でも尿のモレは低減していて驚きました**。外モレがなくなり、衣服やシーツをかえる負担が減るのは利用者様のためにも良いことです。また、おしりがさらさらの状態に保たれるなど機能の良さも実感しました。

介護スタッフでは、**おむつ交換が減ったことで時間と気持ちにゆとりが生まれ、これまで以上にコール対応や見回りなどにしっかり対応できるようになりました**。これは、利用者様が快適に過ごせることにも通じると思っています。実際に創出できた時間を利用し、歩行訓練が必要な方に「今、歩行の練習をしましょうか」と、声をかけられるようになりました。

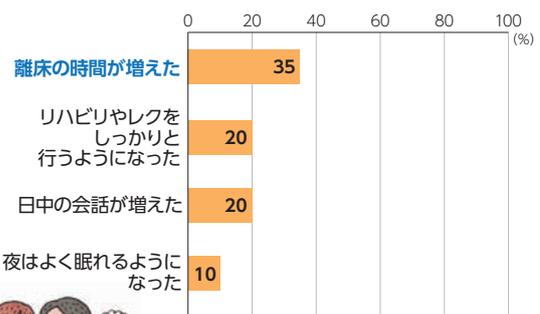
### スタッフ様へのアンケート結果

(回答者数20名)

**Q おむつ交換の見直しによって創出された時間をどのように活用されましたか？(複数回答可)**



**Q おむつ交換の見直しを行ったことによる利用者様の変化を教えてください。(複数回答可)**





長時間座った状態でもお肌をさらさらに保ち、  
昼間の離床をサポートするパッドです。

# 長時間安心さらさらパッド プレミアム

※2  
世界初の  
特許技術

特許技術  
「さらさらドライシート」

「なみなみシート」で  
3つの革新

革新  
**1** 驚きのスピード吸収でモレ安心  
不純物が混じった尿でも目詰まりせず、  
3倍※のスピード吸収



革新  
**2** シルクのような肌ざわり  
ベビー用紙おむつと同じ素材で肌との  
摩擦を20%低減※

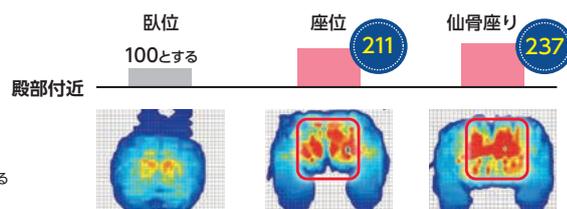
革新  
**3** ライフリー史上 最高級のドライ性  
さらさらドライシート&なみなみシート®との  
Wの効果で肌につく尿を4分の1にカット※



## 着眼 ▶ 座位ならでの肌の浸軟リスク

座位で圧が高まる殿部は、  
尿が逆流しやすいです。  
殿部に「さらさらドライシート」を配置することで、  
肌の浸軟リスクを低減します。

殿部にかかる圧は座位では2倍！



□ さらさらドライシート位置 ※ data: 外部専門機関での座位センサーによる測定結果

※長時間安心さらさらパッド比 ※2 湿潤時にも崇高性を維持できる凹凸シートをトップシートに採用した大人用尿とりパッドとして  
ユニ・チャーム調べ 2015年2月時点 主要グローバルブランド製品において

■ いきいき通信では、皆さまからのご意見・ご感想をお待ちしております。

下記URLもしくは二次元バーコードでアンケートにアクセスしてください。

<https://www1.unicharm.co.jp/enq/jpn/201512lifreeikiiki/>

アンケート締め切り日 **2016年3月31日**

※サイト閲覧には通信料がかかります。  
端末によっては、読み取りができない場合があります。



〒108-8575  
東京都港区三田 3-5-27 住友不動産三田ツインビル西館  
ユニ・チャーム株式会社 営業本部 Pro Care営業企画部  
TEL. 03-6722-1009 FAX. 03-6722-1010

ライフリー・サイト  
<http://www.unicharm.co.jp/healthcare/>  
排泄ケアナビ  
<http://www.carenavi.jp/>



やさしさをつくる。やさしさでささえる。